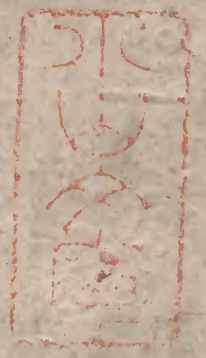


壯
劍
奇
賞

附錄 唐書類圖抄
印籠師名譜并圖

陸



和書門			
二七四三一	八	九	七
號	函	架	冊

內閣文庫			
二七四三	八	九	七
號	冊	架	函
和書			

內閣文庫	
番號	和 27431
冊數	7 (6)
函號	154 87

壯



とさしもよせえしとおとせたりとらるる
といちうすおのがよよふきなるよとせり
おちなきハバセおとせり事なる人の
えびひぞハコハガシ書て誤りかきり
たひなんハ固余が希りしてらねとて
水よひけりしあふと十ふなりハ
れとよみりしやうぞかくハ製し
なんハハの顔厚しとていし
よもとの免ゆし終る即高家の
よとせのれよん事亦幸甚ハハ

○革品

革ハ皮の製しるものよと和よツクリカハと訓ス
周禮天官掌皮ハ掌秋斂皮冬斂革春
之注有毛為皮去毛為革と云と和語
カハとハ甲の音の轉せり或説よ出せり

亞媽港應帝亞

古渡

インデヤハ國の名として南天竺なり一は印度とて
書て印度ハ天竺の心名なり一切經音義よ
えり或書よ臺灣國の南よある一の島とい
ふとて革類を産する所の國名として稱
ふもの多し蠻國の地方名稱よむハ余
よわんハ盡く考へる事わんハ只
りてわんハ目巧の要をりよむハ

くらふあきばらをも述ぶ。まうらう。余が臆見より
出らると。肯ざる人しあざる。左より。カチア
ど。実見を経て。断る。余が疑べり。オヨソ
ンテヤ。此事ハ。万寶全書より出る。参考。ト
余が。減る。絞る。まかく。純黒。絞下。赤
そのの。上品なる。價貴。亜媽港と稱するもの
を最上。全皮大。三ノ。式尺餘あり。按
イン。テニの。屬數品あり。余が。そのの。を。擧
多う。べり
ルイス。印度亞。ルイス。字未詳

絞る。やう。色。煤。黒。是。又。全皮。大方。之。許
長臂。印度亞。全。茶。海。經。之。合。之。許
絞る。ま。の。く。ー。ー。ガ。長。く。見。ゆる。もの。全皮。大
さ。よ。ま。杉。の。山。海。經。之。焦。僥。國。の。東。之。長。臂
國。あり。と。く。ー。ー。け。あり。出。る。よ。や
鼠。印度亞
胤。色。なる。絞。稱。絞。細。大。さ。よ。ま。の。り
中。渡。印度亞
莫。卧。爾。より。似。て。絞。る。や。ー。ー。印。第。亞
心。裏。之。紅。脉。あり。必。ず。裏。裁。入。て。分。つ。べ。り。全

長臂 奇貨 卷之六 芝罘節節

皮大と同上凡以類の皮ハ大とニアズニ寸許
ゆく馬の... 形乃獸なりといふ

古渡野牛印度亜

絞あつく色黒く絞下至る糸一匹革厚く
輕軟一野牛ハ別皮より牛やもう印度亜の
中し或は野牛ハ深山よりわくカルク物と
載るを... 糸が... と

中渡野牛印度亜

漫絞よりして全體茶褐色なり性合よし新渡
野牛と... 中渡よりハ下品と野牛ハカアホ

紋印度亜

テホウヌイスフランスとら國より... 華夷通
高考より...
紋様ニアラズ今其上品ノモノヲ図ス
尤も図... 紋... 鉄印... 打出



らりのと... 華夷通
ホニホウ
本邦より...
あれど渡ハ紋ひき...
地高し偽造ハ紋高
く地ひくし真物ハ
價甚どたよし

新渡印度亜

中渡の莫卧尔に似たり。金皮方之尺許

紋野牛

野牛印度亜の紋を打し、和製なり。

蠻貢のめりありす

七寶印度亜

紋印度亜の紋は、画具にて彩色し、名

びきりありなり。古渡の物にて稀に、價も亦

貴く、新渡のめりあり。一種ハルシヤの皮にて製

し、大坂伏見町筒屋四郎右衛門と云く

擬して作る。はく紫笛と稱し、粗き紋なり

あり。後偽となり。拙堂と云

刺紋印度亜



獸毛を絲よりして五

色に染み、或はて蔓

草の敷織績たり、め

なり。多く偽なり、め

こそ、便也

小印度亜

女莫卧爾此中より品より取擇トリエラ之ニ皮名カウく。
革小形は紋シボも志シほりしきりぬ。

交趾印度亜

紋鹿シボくざんぐりして紋下赤シボし。性ハ能キョれぬ。
下品ゲヒンのめし。但レちりしき所トも之也。交趾の産サン。

なれば、名ナのシ稱シヨウとシ革カウのシ海カイの似と
おひりて肆イタクラよかくハ名ナけし凡オヨソ交易カウエキカ家カの言コトハ。

又ハ教キョウの事コト多タし。

莫卧爾

古渡中渡新渡あり。万寶全書マンボウゼンショよクしクしクしク。

是亦方三尺許サハシの大小オホナヒの皮カウなり。莫卧爾ハ南天竺ナンテンシユ。

又ハ属レヨクヤル第一ダイイチの大國オホクニなり。通商考ツウショウコウよク。

小莫卧爾

莫卧爾革カウ此小形コガタよりして。云イハ十張ジュウシヤウを壹櫃ヒトヒツとシ。

質行ホウカウを一種シユ為ウステひる女莫卧爾メモウと稱シを是コト。

亦云十張壹櫃なり。

呂宋革

万寶全書マンボウゼンショよクしクしクしク。但レ中紋チュウモンとシ。

亦ハ非ヒなり。大紋ダイモンより其カが軟ヤハラカハ裏ウラからしけ

色イロなるもの。全皮ゼンカウ大オホ三尺サハシ強ツヨクより。計ヒケ尺五イチゴ寸サツ。

許カリヤでなり。呂宋ハ南蠻レコクノ属レセら。一ノ島トと
水牛皮スギウヒ

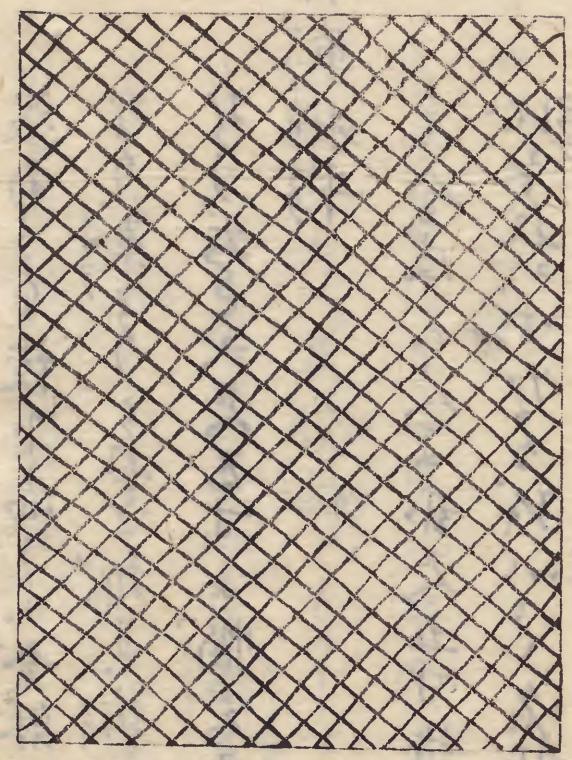
大オホ絞レヲて純黒ニツクノ絞レ下シタ至テ赤ニ。全皮ゼンヒ凡オヨソ壹間クワン
半ニ。横四尺許バカリノもの。水牛スイウ一ニ。沈牛チンウ又カウ牯牛コウ
もつして。其色アヲ青ク。サイロン國サンノ産シ。蠻名バンメウ
カラバウカとフ。或書アルシヨニス。一ト

中渡水牛皮チカワスイウヒ

其絞レあラく。絞レノ上ウ下シタともモ。とシ。茶褐チャカ色シキなり。
新液ニのノありて。其シまマはハ。とシ。もモ。革カウ
こコえエさサ。付ツキなり。紙シ。とシ。紙シ。辨ハ。とシ。是コト又マタ

サイロン國の産サンなり

篩斗目水牛皮スギウヒメ



家カらカをカ名ナ付ツキ。革カウ軟カウ。古液コノノ物モノ。浅茶褐ウスキヤイロ色シキ
なり。大オホとシ。五寸ゴスン。幅ハタチ。とシ。五寸許ゴスンクシ。但タ。色シキ。はハ。紙シ

りのハ和製ワセイとしておとさる

黒水牛クロスギウ

絞シボあらく絞下赤シボ。全躰純ゼンタイにしてこそ皮
なり。表オモテより裏ウラを折フレ目フリメとせざる氣味キミなるもの
なり。大き六尺五寸の幅ハタ之尺五寸許ハカリ

小革水牛コガハスギウ

その合皮カヒ之尺五寸許ハカリして他の水牛皮より
比ヒそれ小コなる皮カは名ナはく革カとせし。甚下ゲ
品テなるもの

銀水牛ギンギウ

地チ淺茶褐色ウチアキの銀ギンの針金ハリガネりて蔓草ハナクサ織オリたる
ものにて紅夷ワラビダシ人の製セイなり

ウスコウベヤ

愚案ウチのウスコウベヤの古渡コワタリれ至て上品ウツクシと稱
するものハ其絞シボ畠ハタとして絞下シボ甚シ赤アカ。但
一萬寶全書マンボウハ皮鑑カシメ賞メれ事コトは甚シ也ヤ。一
つ通考ツウカウをべし。これよりウスニコウルベヤと
いふ蜜語ハニゴなり。然シカ方言ハウゲンといつゝのウスコウベヤと
いひならはし。更さらに謬アヤマリてムスコベヤといふ。今イマ正名セイメイ
を志シする人も聞キを異ヒする。然シカして通稱ツウケウを記シせり

其産地等いさゞし詳ならず全皮大底三
尺許又或尺彊なり

中渡ウスコウベヤ

革此性まぶしく所謂漆氣なるものごとく元
ころ所乾けり氣味なるものごとく

小ウスコウヘヤ

其革小故別よらねを名く

新ウスコウヘヤ

是ハ黄百爾齊亞此極品乃所と和して修製
新ウスコウベヤと名て其性合よきものなり今

稀にして得るは大きよは

小豆革

紅夷人乃貢するものにして其色の似たるもの

稱するもの一乃寶全書よりくちる也但

大紋なるものといふ事いさゞし格一かす小紋

れものもあらず又革厚いとあるものいさゞし

大さ二間幅一間許れものにて全皮ハ大きなる

べし今扱ふに己は切らるものといふれば

むて大きなる獸の皮あはんとて重人の褥

なりとせしめんとすき

但一種あり裁切て渡す
はとらるる都合あり

よくうーかゞんばるあやまうー。サントメハ西天
三此地名れよー。全皮大さ二尺五寸又八寸許
中渡聖多黙

絞下ねむみ色なる。新渡も同様なり
大絞聖多黙

絞乃鹿大なる絞めて稱と。性合等異なるもの
わくど。絞乃様子よゆうての事と

小絞聖多黙

是又絞以めて稱なる事。あよ同し。但下品
のみのこと。全皮大さ二尺五寸許と

黄聖多黙

黄むみ茶褐色にて。性合とらうとねむり
ありて純色革なり

白聖多黙

其色純白。雪も勝る。表ハ乾気有
てねむり。性合とらうと革なり

真黒聖多黙

其色乃純黒なる絞めて。稱と。蜜船真とらうの
あつとらうと甚よる。和製ハくろにあらう

湯入聖多黙

表の方ホク
 ボクと擗サゲる味を絞の上サクウして絞下白
 毛の穴のどまりのふり。是ハ船由シヨして塩シホ入るの池
 真黒とくしう

紋聖多黙

ナントメは紋を打つものにて和製なり

百爾齊亞

此革は事萬寶全書より所甚うしき色の
 五色ありて五色革といふ。古渡川かきけ
 色よりしては和なり。性公にて勝スゲ色ソシレ汁シより

製本

白百爾齊亞

おらつとてし。中渡のめはつやあうと堀ウレ川カハ
 汁の付よりし。す。まシグロロ
 ルシヤと稱するハ。船貢フナコウより和製よりあす。ふ
 拾張シウシヤウふに拾張シウシヤウ収ウチ一ヒト楕ヒタリのく。西天サイテンに三サン枚マシを
 是ハ全皮よりしてし。の皮ウシよりし。水銀スイギン
 壺ツボ成ナリるはあし。用ヨウは備ソナへ。性シヤウ公コウにて
 下品のものなり

苔革

面背ノ圖次ニ出ス

萬寶全書よりなり等トウ妻メくはう。蠻人の製なり

製本

巻之六

七

製本

して肆^シ又^{カハ}敷^{シキ}革^{カハ}又^ハ銀^{ギン}革^{カハ}伊勢^{イセ}いんてん
とも^イつ^チ凡^{オウ}拵^ニ乃^ヒ似^ヒく非^ヒなるの^イ戎^イ伊^イ勢^セいん^テん
い^イを^セな^シび^ビひ^ヒが^ガを^シも^モお^オき^キを^シま^マや^ヤな^シを^シみ^ミま^マの^イ戎^イ伊^イ勢^セいん^テん
此^シ池^チ又^マ本^ホ本^ホ系^{ケイ}の^イ鴨^{カモ}也^ヤ伊^イ勢^セいん^テん
伊^イ勢^セいん^テん
青^{セイ}漆^{シツ}り^リく
菊^{キク}の^イ紋^{モン}戎^イ搦^ニサ^サり^リの^イよ^ヨて^テ裏^{ウラ}表^{オモテ}模^モ様^{ヤウ}図^ズの^イよ^ヨて^テ
か^カを^シぬ^ルり^リ大^{オホ}と^ト方^{カタ}一^{ヒト}間^マ餘^{ヨリ}を^シ截^{セツ}断^{ダン}せ^シる^イの^イよ^ヨて^テ全^{ゼン}皮^ヒ
此^シ大^{オホ}と^ト方^{カタ}一^{ヒト}間^マ餘^{ヨリ}を^シ截^{セツ}断^{ダン}せ^シる^イの^イよ^ヨて^テ全^{ゼン}皮^ヒ
さ^サら^ラぬ^ルり^リ大^{オホ}と^ト方^{カタ}一^{ヒト}間^マ餘^{ヨリ}を^シ截^{セツ}断^{ダン}せ^シる^イの^イよ^ヨて^テ全^{ゼン}皮^ヒ

奥革

莫^モ卧^ウ兒^ル又^マ似^ニて^テ更^サ又^マ下^ゲも^モなる^イの^イなり^リ

小革

小^コ革^{カハ}ハ^ハル^ルシ^シヤ^ヤよ^ヨく^ク似^ニく^ク戎^イ戎^イの^イなり^リと^トあ^アや^ヤする^ル人^{ヒト}
少^{オウ}く^ク大^{オホ}の^イ性^{セイ}合^カと^トなる^イと^ト異^{コト}なる^イの^イなり^リと^ト保^ホなど^ト云^ク
さ^サら^ラぬ^ルり^リ大^{オホ}と^ト方^{カタ}一^{ヒト}間^マ餘^{ヨリ}を^シ截^{セツ}断^{ダン}せ^シる^イの^イよ^ヨて^テ全^{ゼン}皮^ヒ

紋百爾齊亞



和^ワ製^{セイ}な^レれ^ドも^モ船^{フネ}貢^{コウ}乃^ニ
の^ノ擬^キせ^セ模^モ様^{ヤウ}を^シ
お^オし^シり^リと^トぬ^ル戎^イ高^{タカ}く^ク
地^チひ^ヒく^ク

紅革

榜葛刺革

萬寶全書云ハルシヤ此中よりありと云るを以て
 非なり性ハサントメなり古渡ハ浅紅色ウスモイロ
 て性合等甚で上品なり新渡ハ色赤アカく光ヒカリあ
 りて大りおとり革もこまかくハリツクなり
 味なり
ハ革を黒サントメと染るるを揚梅皮モウカハ煎ヒニりて
 汁にて十遍ジウヘン許シヨク染シヨクも後ノチ五倍ゴパイ子の煎汁シヨクは緑キナンド茶チヤと
 入きて染るるハ黒サントメと染るる也但古様コサマは仕立シタテるより大染オホシヨク上ウラ
 へ後ノチ石イシ灰カイりて染るる也
 細屋コノヤは用は梅汁ウメシヨクとて皮カ刷毛シヨウモウにて一面イツメンは引ヒキえ染シヨクは染るるといへり
 皮刷毛カシヨウモウりて引ヒキおろして皮敷水カシクミヅは水ミヅハかかすそむるりの色ハ
 染上シヨクノカミて後ノチ洗シヨクふくるとりやちとて洗シヨク汁シヨクの
 法ホウはこれと法ホウはこれとありのなり

坂本新介刻

透革

ハルシヤのていごとくして別種なり革も又小ぶり
 なり赤黄黒の三色あり其色さみの浅シヤシヤんシヤシヤと赭セツ
 と稱する事色の良ヤ似ニたり瓜ウリはんハンベニガラベニガラハ蜜ハニ
 夷イの地名にて東印度の種シユなり武備志ブヒシに
 も記しきり
スカシカハ 彩色革ナリ
 和産の牛此あまをぞ成サビ皮とつひく刀脇差カチヲサシ
 此鞆工サハシの用ヨウありのありそサビ皮のていごとく成ナリを抽ヒキへ
 打ウチんンは人物カヲハナを成ナリの敷シキを摺スリ録ロクとて成ナリを
 うへん是ハおりの此コノなり

表刺綺賞 卷之六 十五 武備志

象牙皮

蛇手

色厚く厚さ寸許紋甚だ大よしてありし。
薬用ニ備ありし。裁縫ハ一向用ひざる物。



模様図のごとく。地ハ
黒漆ニ銀鑪末ヲ加
てぬりたるごとく。光り
ありし。ざらりとす
氣味あり。模様ハ五
色をりてぞれり。

山本清右衛門



のりて。蠶人の製なり。勿論革の性もより。
一應ハ教を交易ありて。金唐皮と稱ぶ。萬寶
全書ニ金革金唐皮と二品あり。出せりハ。當時
多く流布せざりし。ありしやう。

升平日久きよりよみて。百貨競ひあはせり。海外
より貢とる所。年々新なるものゆゑ。吾俗もて
これを粥て。主顧のりめよきものなるを辱む。
故に書に載とる。新舊は問はず。これ誠
出と事。皆もなきにあらざり。よよよ事。若くは
いつらごご

人形手

左の図よ出せり。人物あり紙りて。は名紙
稱ど余がくも。和四品あり。地色濃浅ふ。よく
模様所種々。著色も。大さ式尺五寸よ

山本清右衛門刻

式尺式寸れり。の革こ。性ハ印度亜なる。
又猿皮画を添く。地色濃鼠のごく。模様ハ銀
なり。おえよ。彩色下の様にて。銀光トミ
錫箔れ。大さ式尺八寸よ。式尺式寸のり。
革。次なり。志のれも。地色様
撮よ。おいて。希代乃。抽く。又地栗色。よく。模様
此所。箔濃。大さ式尺五寸よ。式尺。革軟なる。は
の。又地。模様。一面よ。金色。よく。大さ。茶の
。革も。や。なる。各人。地。画。入。り。
凡。金。革。の。金。箔。よ。わ。び。銀。箔。よ。色。を。け

同銀革圖



表刻新賞

卷之六

十

芝草館藏

人形革圖



表刻新賞

卷之六

十

芝草館藏

山本清右衛門刻

皇朝御覽 卷之六 三十一 皇朝御覽

さうのよて。撻孫ハさうて鉄印なり

定屋革 ヨドヤカハ



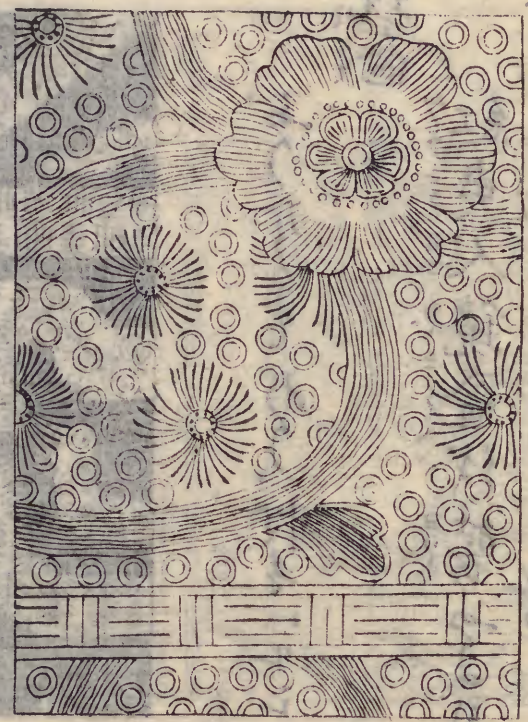
極印手 コクインテ

古一往年本府に定屋古菴といひ一への珍
花なるやめて名く今多く見ゆと價貴し

革の性ハ苔革と同じ
く極印よて打出し
黒漆をりて圖の如
くさうさうりのなる
船来のおよて甚ぞ

山本清右衛門刻

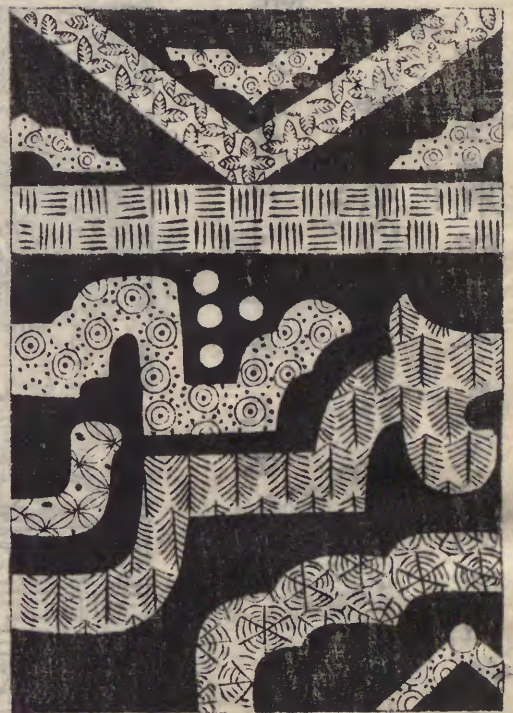
前よりさうとく。金革ハ銀箔成製しなるりな



羅紗手 ラシヤテ 又火口手 ホクチテ 凡云

地ハ箔濃く鉄印打出撻孫乃所羅紗比ごとし
全體銀地よてかの所紗れごとりの撻孫

皇朝御覽 卷之六 三十一 皇朝御覽

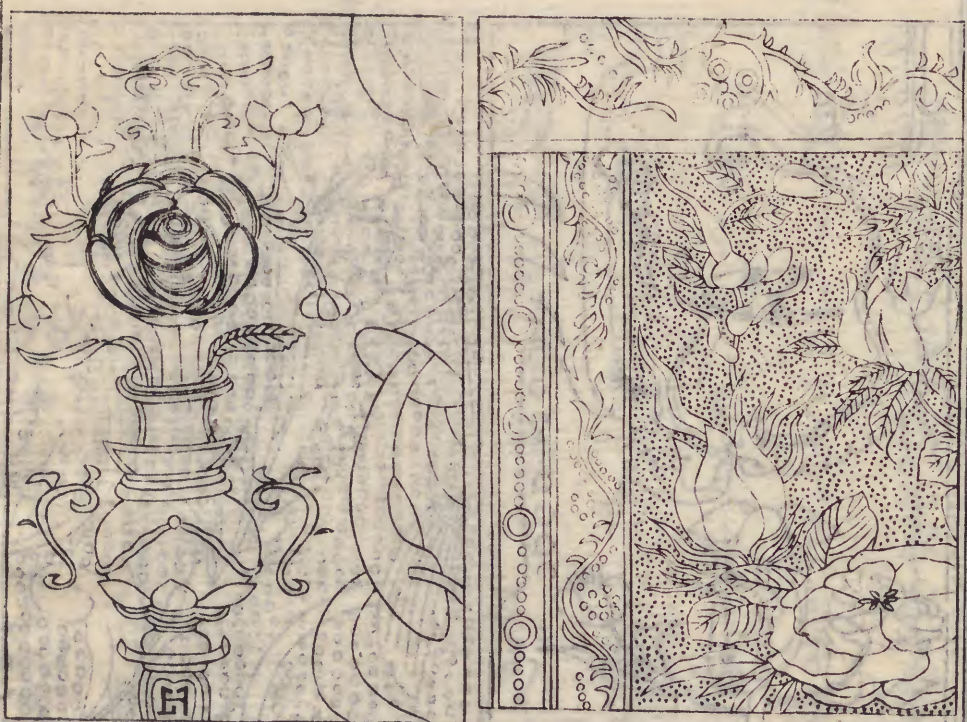


あつたつともあり。性まハルシヤかり

鏡奩

紅夷人鏡奩フランダーズ鏡奩カミノイ鏡奩ヨソホ故よび名あり。き
様品あり。今僅ツツカよき一二を圖ツと

藤江四郎兵衛判



花の如きものあり。其キチヤ紅ベニしりて。紫ムラサキハ縁ヘリ之
甚シで美ミかり事。この
中ナカより最上サイジヤウのもの
換カ様ヤウよびて銀光ギンクワ潔ツヤ
し。地チハ濃ノキ脂シ乃ハ
玉タマて奇キ麗レイし



地銀チギンにて七子の如
き打切ウチキあり。花ハ
紅ベニの甚シざり事コト也

地色チイロ一ヒトなり。朱漆シユエスリ
青漆セイシツ濃ノキ缥ハナダ色イロ又マタ茶チ
褐色カクシ等トウの漆シツぬり或シ

ハ石黄シヨウワウ白漆シロシツなるも
あり。捺染ナシツハ白濃シロノキ之ノ

藤江の郎兵衛

革カウハ八ハチ寸スンヤ銭ゼン裏ウラよりヨリ七シチ寸スンのノ幅ハタチなり。大
此方コノカタハ小コトハ七シチ寸スン幅ハタチ四ヨウ寸スン七シチ分ブン但タ摺返フリカエの邊ヘリ
ハ除ノゾクく。此コノ外ソノトモハハ查シのノ扇アヒよりヨリ用モチたるト革カウ頗コト大オホなり。
其ソノ外ソノトモハ幅ハタチ七シチ寸スンあり。扇アヒの表ウラ裏オモテともモ七シチ寸スン
を張ハリ用モチひハらウ

王子手オウゴテ
地色チイロ雞卵殼ニワトリノカハの白シロと色イロ合マシして。下シタ銀彩ギンサイ清キヨく。
花ハナ并ナヒ禽鳥カニニウ或シハ栗クリ鼠蝙蝠ネズミカバハリなどナド銭打切ゼンウチキなり。
又マタ事コトハ彩色サイシなるナリものなり。是コノ金革キンカウ中ナカ第一品ダイイチヒン

類聚言... 卷之六

花瓶手

うしそよみ稀かり。價も又たよし。



全皮の印位よ。大なる花瓶よ。花枝挿し。花図ある。裁りて名を。今ハモろ。裁寫せ。ふかり。革軟して下品のおよあらず。

銀革

前よ。名銀革とい。今よ。別。

藤江 79



模様図の。二。あう。一面銀れ。すび。やくだんよ。彩色。かく。打出。お。革甚。箱が。裁。此方。此。ゆ。よ。を。七寸許。

表刺新賞... 卷之六... 廿四

無地金革

「名梨地金革」

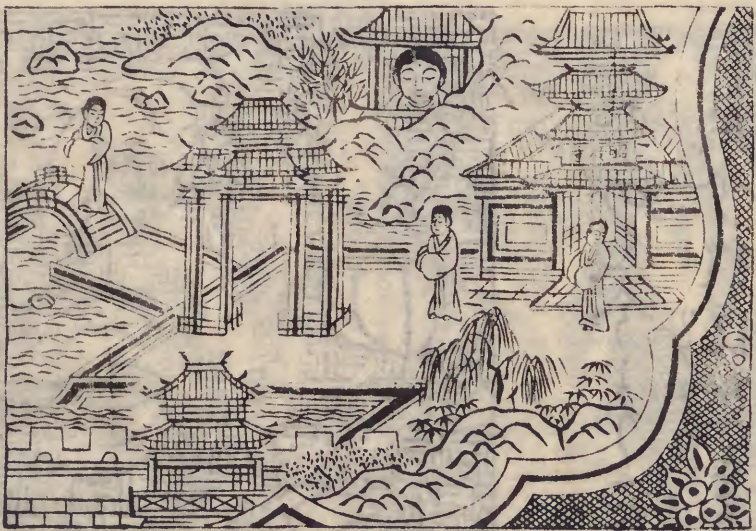
百合手



總金ソウキンとすびやくだん色ニにして地紋捺捺等ニはやく
めんわりとーたうぬく革ニやまうりなり

地色銀の上ニは、樺皮カバ
れニとよわりく。圖の
とと捺捺ニを起ニ
らるく。花の蕊シベ百合花ユリノハナ
れニとくならびりて。は
名あり。革少ニ一硬コバ

琉球繪革



れなり。文庫ブンコ探サウの箱ハコに張テて後ノチを剥ヒキらる

下地シタヂは朱ニにしてぬり。き上ニは
は方ニよりウルミ色ニなり。漆ウレシ
はかけ。山水樓閣エシケイを景ニの
人物ニは、線ヒヤクは泊濃シロと墨クロは漆ウレシ
こそ画エガキのりして。おし
らるおまわらず。そは硬コバキが
あふ。さうやうなごまれが。
折目マヅメの所ニより。朱ニの色ニも

菱川新書 卷之六 一十五 日本洋館

拓榴手



此のく今より二十四五年前より四百張許真を
所今に流しよるつと

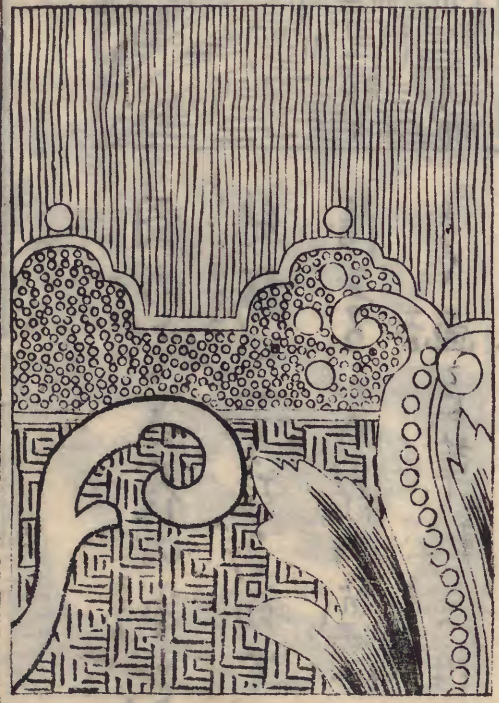
青地



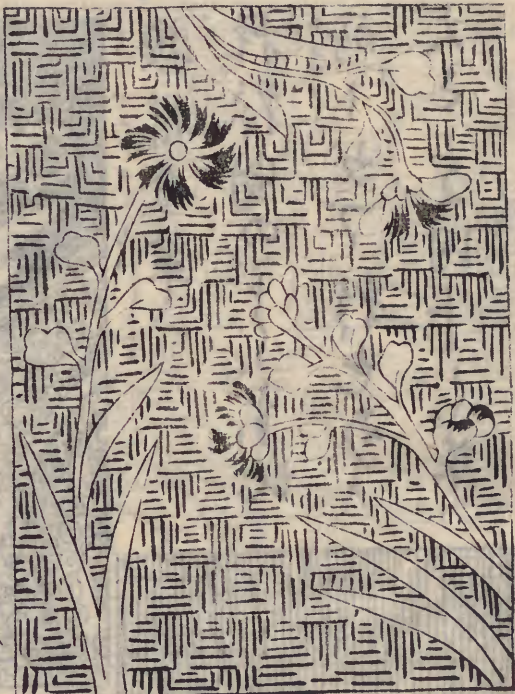
地蔭緑にチヤン薬成
りつとて。挿採図
れど。藍赤白にて
彩色より。大さ同上革
の性より

大模様金革

挿採図のいよ。青地
所いさづ彩色あり。
大さよ同ド革
性少こけ



小摸様金革 又櫻手氏云



花の茎ほろろ革性硬く彩色等きとで
大さみの彩色上と同様なり
古渡紋水牛 前水牛此次へ列まざる意
紋の内紋のすゝめて地ハ一皮とす

図のいゝと花の趣と
絲様のやうなり初て
後まろりの花の莖ふ
と画き革軟は性
亦と後後のものハ

淀縫



是ハ全皮あつて
サントメ、ルシヤ、紅革、金
革、又ハ白ルシヤが
裁たつてあつた



きりのはがらとらとら
革少硬

中着筒乱れ料キニヤウバウランなるほどとせ。形カタ厚アタリの
類タビ或タビ繡ヌイ補ホひヒのノのノ山城ヤマト定ヨド府ノにて製ツクとモ甚シ
巧タビくク古コ色シヨクなり。他タ所シヨにてモ製ツクとモしシ
てモ定ヨド造ゾウといハす

渡白滑革類

舶来ハクライの白革三品あり。所謂獐皮コビトハ小様コサマのめ。
山馬ヤマウマと稱ナとモりのハハ大オホ方カタなり。並ナラビ大宛オホワン固コウ乃
産サンなり。暹羅シヤハの産ハ山馬同様ドウヤウ此コノ大オホ方カタなり。是コノハ
佩物サケモノハ用ヨウひヒされルも唐革タウガハの類ルなり。以モて
此コノ絲イトとモ下十品カミジウシフハ和革ワガハなり

村上吉古蘭明

五平革全圖

鶏革

地紋チモン鶏羽ケイウのノぐグふフとモりの線セン以モてハ名ナあり。又
繩ヒツとモりのぐグふフとモりの列レツとモりの紋モン鶏ケイとモりの云クニ
あり。右ミダの地紋チモンの上ノとモりの緑キナンドとモりの菊キクのノ花ハナとモりの云クニ
ちチとモりの方カタとモりの云クニ

天平革 附正平革

肥後國ヒゴ八代ヤシロ古閑コクワン橋ハシのノほホとモりの製ツクえエ鏡キョウのノ威イ
此料コノとモりの天平十二年八月テイヘイニジュウニネンハチゲツとモりの題タイとモりの當トウ時ジ交カウ易ニキ
せセとモりの後ノチ賣ウ買カ成シゆユとモりの御免ゴクニカハ革カと
しシとモりの又マタ正平テイヘイ南朝六年六月一日ナンテウニゲツニシツとモりの題タイとモりの云クニ

正平革全圖

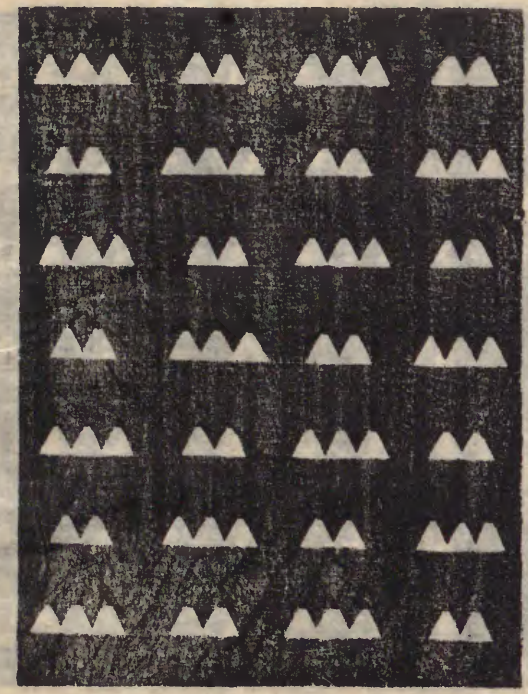


正平革全圖
卷之六
之

村上吉右衛門刻

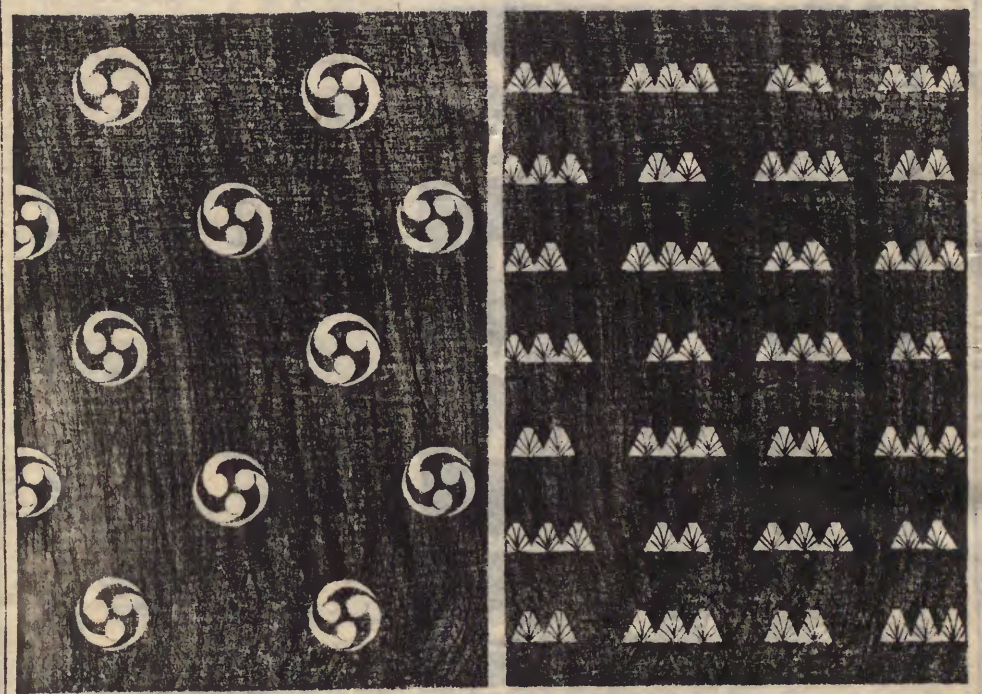
草蒲革
シヤウブ
カハ

是正平革と名くは事々々々近代世事談
と書よまろせり。尤も正平なり。右図れ
一具とて全皮よ六具収む



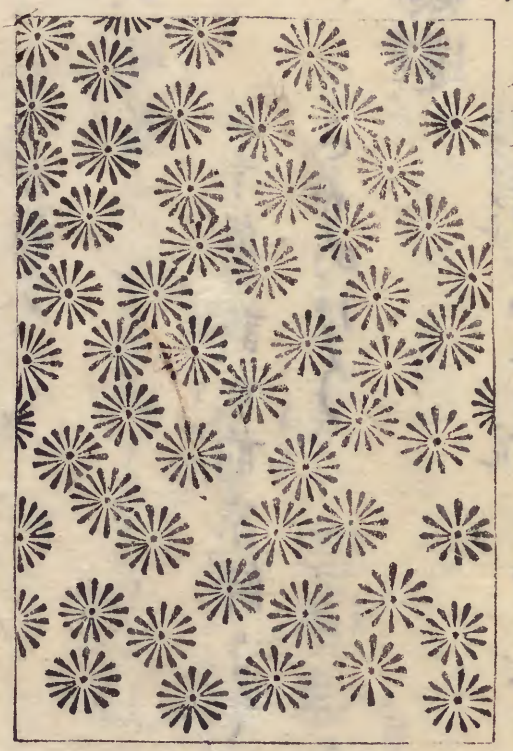
城州男山の麓
往昔漆ふ所
是も鏡の威よ利ふ
草蒲ハ勝武の義哉
音又借て、それ役せ
ふくけ亦事、該の

正平革全圖
卷之六
之



此のモトモ
説教これをもゆる。故
くは詳なまらざる。又
け革などこそい
図をくまら及ぶのども
て代りののり成さ
しめんが考ごまかせ
に次の図なら成花昔
膚とも杉立ともいひ
を次なるを巴昔膚
といへり

御免革



地成紫と深て。圖の
ごとき菊の形成おさ
くらののり。ま探の天
平革と似らをもて。
これ成御免革と稱
して賣買と。真の御免革と別なり

姫路革

播州姫路にて製と。五色あり。いづれも一糸の
葵と散桜に極印あり。太さを尺之すよ。七す

金鼠

毛先金光あり。又銀鼠あり。同毛先銀色かやけり。
是ハ數十張^{ニイ}張^{スレ}紙^シ縫^ヌて衣服^ニ製^スる^ルの^ニた
なり。蜜^レ人の衣裳^ノの^ニや^リて^テ透^スる^ルの^ニた
なり。一種^レ火鼠^ト稱^スる^ルの^ニた^リ。そ^ノ毛^ヲ赤^カく^テ紙^ニ
帯^ヲ。火中^ニ投^ゲれ^バ燒^ケる^ル。い^ハ侍^ノ者^ト志^ス
う^ス。或^ハ人^ノあ^やま^ま。火中^ニ投^ゲれ^バ燒^ケる^ル。い^ハ侍^ノ者^ト志^ス
と^シく^テや^きた^り。以^テ笑^ハれ^ル。か^ノ竹^ノ取^リ抽^ク
より^テ免^シび^ー火^ノお^とみ^のか^きね^なる^ルの^ニた^リ。
火^ニ入^テも^テ燒^ケる^ル。人^ノ火^ノ浣^布が^いて^もい^ハる^ル。

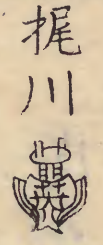
獵虎

ハ教^リて^テ得^ル。き^もの^ニや^きる^ル。今^ハ火^ノ鼠^トと^シて
付^ル。ハ^カる^ル。免^シる^ル。好^ク事^トれ^ルの^ニた^リ。い^ハお^とる^ル。そ^ノ毛^ヲ
實^ニあ^らる^ル。近^ク或^ハ人^ノの^ニた^リ。火^ノ浣^布紙^ニ
製^スる^ル。い^ハ火^ノに^テ投^ゲて^テや^ける^ル。い^ハ紙^ニ
吹^キを^ル。い^ハ紙^ニに^テ實^ニ見^ル。い^ハ紙^ニに^テ詳^ニと^シて

革履ツバタクリありざれども佩物サバケモノ等ヲ用ヒきばらざる
これ錢出せり

○印籠工名譜

凡印籠イニロウの名義メイギ説ツクくあきども未詳故コト略リヤクす
今録イロクするに印籠師イニロウシ名有アリて氏ウヂ志シども氏ウヂの
稱ナヅケして名のナさ々々ササ等トして名ナ姓セイ字ジ號ガウ
よかりずしひなかりよまきつせてこれ錢カネの
む只タカ必カナラき強サ深ベウあへん事コト以シ識シ者シヤ正タマ馬セ



梶川カキガハ 翁オウ久次郎キウジロウ 梶川彦兵衛カキガハヒコベエ 弟子シシ
江戸中橋檜物町住江戸ナカハシヒノモノマチ

印籠工イニロウ古今イマコノ第一ダイイチ此人コノヒト故ナリに價ナ甚タマシ貴クし一ヒト作ツク

重裡オモウチの刑部ケイブ梨地ナシチ又マタ平目ヒラメ梨地ナシチなりありアリ跡アトもえ

事コトなりえ祖ソより今イマももて其名ナ成ナリおとす

先マハ工コウの名ナ家カとシてス

古満コマン休伯キウハク

江戸中橋住江戸ナカハシ

御印籠オノイニロウ蒔繪マキエ師シ

是又コト梶川カキガハと等ヒトしと名ナ人ヒトなりえ祖ソより當代コノトキも

あつて家聲カセと減ゲせども名家メイカなりうれ

觀子カンシ破笠ハカシ

江戸人江戸ヒト

上ウなり人ヒトの翁オウ終ハシる必カナラど樂燒ラクヤキ又マタ堆朱ツシユ又マタ
深角フシカクなり錢カネありし仕立シタテ事コト甚タマシど風流フウリウなりし
なり是又コト一名ナヒト家カとシてス

近直号 姓氏居住等未詳

春政 姓氏未詳 京師人

塩見小兵衛政誠 京師住

磨^{トキダ}出^ダ一^キ新^キ佐^ダのり^キの多^キ一^キ甚^キど^キ奇^キ籠^キ上^キのし

加兵衛氏

常加

山田氏 江戸南塗師町住 御印籠工

法橋光琳

梅^シ勝^シ六^シ號^シ青^シ々^シ堂^シ 京師人

光悦門人として凡流の好士なり。画をよくす。亦

一家に印籠ハ光悦好のからなり。其時

後ハ所謂光琳凡の徒として青貝かきひいて

形を模し地を粉とてうづみ内と紫地を用ひ

すやう金粉濃なり。銘ハ蓋のくま 錐のつ大

くま 細く其名代あり

田付孝則 江戸人歟 孝則親族歟

同 せう女 江戸住 河州御地

桃葉齋 梅源六 江戸住 上手

野村九圭 梅次郎又 江戸住 上手

同 樗平 梅次郎兵衛九圭弟 江戸住

圓阿弥丹後

江戸神田永富町住

上、^キ時繪結構キして甚ス又事ナなり

幸阿弥因幡

同 皆川町住

是亦上キなり其作丹後キ等キ一

奈良八左衛門

江戸住

望月重蔵

同上

狩野十旭

名建元木村氏稱文次郎 江戸住

巢野不幽

名重春木村氏稱甚右衛門 同上

温故長寛

江戸人

覺カク々ク齋サイと彌ガウと上キなり

土田半六

江戸赤坂住

刑部太郎

江戸人

奥村四郎兵衛

同上

鈴木正義

京師住

安川

其名未詳 大阪住

友忠

根付師ノ條ニ出

時繪印龍キ製キとらとあキ象牙キとて彫成キ

図ゾとらと七賢人キと六竹キと虎キ彫起キと年キ

辨命書賞 卷之六 州六 三十一

時繪師市兵衛 大坂追手筋

貝入さひ印籠師なり

清兵衛 大坂伏見町邊ニ住

甚上りしにて。母は清兵衛のバラ印籠と稱して賞散をバラ印籠とハ重姓バラくく合て合に下と上の重は合し裏姓おりて合てし。合合とくくして同一境梅なる姓し。余弱冠の比江府へくくして時數奇屋川岸に住せり。児島新といふ人梶川古満など上作の江戸印籠を同利とる事姓に

授せしむる。上作のめりて又極むる。ハ右バラ印籠れめく合せえて其肯察姓得を以て上印籠の約束とくくして姓あへられ姓承く。これを試とる事なり。さて此意をばく。鑒識せり。十は八九で得れ事なり。是高家の秘といへり。児島氏の功老なる。はば我々告んぐめく。はばはば。ハウモイ。図案へめされ。不幸くして箱根の宿に病

五く没せりと 大坂追手筋 京師入

